

武蔵学園鵜原寮から武蔵高等学校中学校に移動された 古い魚類標本，および戦前の海浜学校に関する液浸標本

白井 亮久^{1*}・臼井 陽²

(¹生物科，²元生物科・41期)

*shirai.akihi@musashi.ed.jp

要 旨

武蔵学園鵜原寮（千葉県勝浦市）に保管されていた主に魚類の液浸標本 76 点を，2019 年夏に武蔵高等学校中学校（東京都練馬区）の標本庫に移動した。多くの標本には採集日と採集地が書かれていないものの，聞き取りの結果，少なくとも 1957 年には確認されており，ラベルや標本瓶の古さ，墨で書いた布ラベルを用いたものもあることから，戦前の鵜原での海浜学校で採集された可能性があることが分かった。今後，以前から標本庫にある標本と合わせて目録作成や整理，由来の推定などの記録を残した上で，適切な管理をしていく必要がある。加えて，標本庫に収蔵されている戦前の海浜学校に関連する液浸標本，生物部の鵜原での採集標本についてまとめた。

Keywords: 学校収蔵標本，夏期学校，魚類標本，液浸標本，学校史，旧制高等学校
海浜学校，総合的な学習の時間，戦前，生物部

はじめに

武蔵学園の鵜原寮（千葉県勝浦市鵜原）は，旧制武蔵高等学校および新制武蔵中学校の海浜学校（夏期学校）で 1928 年から利用されてきた寮である。幾度の修理増築・改築をしながら 2018 年の武蔵中学校の海浜学校終了とともに，翌 2019 年をもって閉鎖されることになった。鵜原寮には液浸標本数十点が保管されており，今後どのようにするかが問題であった。2019 年夏，それらの標本を武蔵高等学校中学校（東京都練馬区豊玉上）の標本庫に移動した。また，その標本の由来を探るために学園および鵜原寮の関係者にヒアリングを行った。本報告では移動の概要を記録として残す。

加えて，鵜原寮の閉寮と本校の海浜学校の終了に際し，標本庫に以前から保管されている 1962 年に鵜原で採集された生物部の標本，戦前の海浜学校で採集された液浸標本についてもまとめる。

A. 鵜原寮に保管されていた標本とその移動

実施日：2019年7月29日（月）（武蔵学園施設課の棚卸と同日に実施）

作業者：白井陽（元生物科教諭，41期卒），岸田知磨（当時高1），白井亮久（生物科教諭）

A-1. 標本の保管状況

標本が保管されていたガラス戸棚は，鵜原寮本館の裏玄関近くのホールにあった（鵜原寮の配置図は武蔵学園70年史委員会（1993）のp.229を参照）。戸棚には2つの備品シールが貼られていた。ひとつは「No.E19980083-0001，品目 陳列戸棚，購入 1988/08/31」，もうひとつは「No.CY-04-05 001-’88，品名 標本ケース(67180)，棚卸 平成22年3月31日」だった。

戸棚内には76本の液浸標本が確認された。多くは保存液が充填されていたが，瓶が割れて液が漏れているものが1点，ラベルがカビあるいはナメクジ等による食害などで見え難い，または見えないものもあった。そのほか，ラベルは貼られているが中身の無い空の標本瓶が3本あった。

A-2. リスト作成と梱包と移動

標本瓶内の中身で腐っているものがほとんどなかったことから，全て持ち帰る判断をした。その場で簡単なリストを作成し，学校に戻ってから簡易同定を行った（表1）。梱包の際，床にブルーシートを敷き棚から標本を取り出し，新聞紙やエアークッション（緩衝材）で標本瓶を一本ずつ梱包したのち，持参したプラスチック箱6つに収納した（図版I）。液漏れ対策のため，箱の中にビニール袋を敷き，袋内に標本瓶を入れた。鵜原寮から武蔵高等学校中学校には乗用車で運搬し，理科・特別教室棟の第一標本庫内に一時的に保管した。

A-3. 標本群の特徴・標本の内容・ラベルとその記載事項・標本瓶の種類

液浸標本76本の内訳は，海水魚類69点，イカ2点，海産甲殻類2点，ヘビ類3点だった（表1）。いくつかの瓶には複数種含まれていた。

標本はすべてガラス製の標本瓶に入れられており，蝟かパラフィンで封じられていた。広口の円筒形の瓶で，ガラス蓋の持ち手が球状（甲号）と直方体（2号）の二つのタイプがそれぞれ52点，21点あり，ガラス蓋の裏側には，標本を吊るす糸を掛けるための鉤（かぎ）がついていた。そのほかオレンジ色のゴムパッキンがついたジャム用の瓶を使用しているものが3点あった。臭気がホルマリン特有のものであることから保存液はホルマリン溶液であると考えられた。ガラス瓶の劣化が激しくひび割れや欠けも見られたが，中の液はそれほど揮発していなかった。74本の瓶には直接，油性ペンで1～74までの数字が書か

れていた（以下、油性ペン番号）（表 1）。

ほとんどの標本には何かしらのラベルが貼られており、それらの多く（62 点）は旧制武蔵高等学校を表す MUSASHI KÔTÔ GAKKÔ と印字されたラベルだった（以下、MKG ラベル）。横長の細ラベル（図版 II の C, 図版 III の e）と太ラベル（図版 III の a, b）があり、そこにはカタカナで生物名が書かれ、「ミノカサゴ」や「クロトラギス」など一般の名称のほか、「キツネ」や「ハカリメ」など、地方名と考えられる馴染みのない名称で表記されたものがあつた（中岡による私信）。また、墨で書かれた布ラベルが付いたものが 2 つあり、それぞれ「アカベラ」、「カギエヒ」（ガンギエイと思われる）と書かれていた（表 1, 図版 II の D）。MKG ラベルの標本に採集地や採集年の記載はなかった（図版 III の a, b ほか）。

MKG ラベル以外のラベルでは、採集年や由来が書かれていたものが 3 点あつた。油性ペン番号 61 のマムシの標本は、1959 年 7 月 25 日に鵜原寮近くのトンネルで捕獲されたもの（図版 III の C, c）で、油性ペン番号 59 のシマヘビの標本のラベルには 1962 年 7 月採集と書かれていた（図版 III の F, f）。また、エボシガイの標本（油性ペン番号なし）は、「1989.7.21. 守谷湾」で採集されたもので、当時中学 2 年の生徒の名前も書かれており、他の標本瓶とは異なるゴムパッキンのジャム瓶の新しいものだった。

A-4. 標本の由来

今回移動した標本の多くは MKG ラベルで和名があるのみで、採集年や採集地が書かれていない。MKG ラベルの標本の由来を調べるために、学園や鵜原の関係者にヒアリングを行った。

移動の当日、鵜原寮の管理人の野村浩三さん（勤務 1997 年～2020 年）に聞いたところ、直接は知らないものの、恐らく鵜原での海浜学校中に地元の漁師からもらった魚ではないかということだった。角網（小規模な定置網）で採集されたとされる魚が多いことや、和名に俗名が多いことや聞き間違えのような表記が多いことから、確かにそれらの説明ができる。年代については、古いものだけということしか分からなかった。

その後、前管理人の深澤さん夫妻（勤務 1982 年～1997 年）を通して、1957 年から鵜原寮に手伝いに来ていた女性(T さん、現在 84 歳)の話を聞くことができた。その方によれば、1957 年に当時 20 歳で勤め始めた時から標本は存在しており、鵜原寮での海浜学校が始まった昭和初期のものかもしれないとのことであつた。その方も深澤さんも前述のマムシの標本の採集年代と由来も覚えていたため、それなりに確かな情報といえる。マムシの標本は当時の管理人の松村さん（故人）が、鵜原寮入口のトンネル（「武蔵七十年史」p.54 写真参照）で拾って標本にしたとのことだった。

以上のことから、正確な年代は分からないものの、MKG ラベルの標本は少なくとも 1957

年には既に鵜原寮に存在し、昭和初期まで遡る可能性があることが、今回の聞き取りによって判明した。標本には戦前の魚類標本でよくみる墨で書いた布ラベルも用いていることから、それなりに古いものであると推測される。

武蔵高校学校中学校の前身である旧制武蔵高等学校は 1922 年開校で、学校には現在でも創立早期の標本が多数保管されている。鳥類剥製や昆虫標本の多くが 1920 年代で、生徒や教職員、専門家によって学校周辺で採集されたものが標本として残っている（高田・白井，2016；白井ほか，2020）。液浸標本も 900 点超あり、年代が判明している標本のほとんどが学校創立早期の 1920–1930 年代（大正末期から昭和初期）で、今回鵜原寮から移動した標本と同じ旧制武蔵高等学校のラベル（MKG ラベル）を用いている。ラベルだけでなくガラス製標本瓶のタイプも類似したものがある。鵜原寮での海浜学校は 1928 年から始まっているため（表 2），その年代に採集された可能性は十分にあるといえる。

なお、著者のひとりの白井により、標本瓶表面に記載されている油性ペン番号や記号は白井本人の筆跡であり、約 30 年前（1988 年・昭 63）の鵜原寮本館の改築の際に、別邸の賓寮に移動させた時に記したものであることが判明した。同行した当時校長の小林奎二さんからその時のことを聞くことができた。ナンバリングや記号を付していることから何かしらの意味を持たせてリストを作った可能性があるが、現在では残っていない。標本戸棚の中に残っていた標本固定・保管用に使ったとされる formalin 溶液の空瓶には、白井の直筆で「'88 Jul.」と書かれており、一時避難に関する年代の整合性も確認でき（表 2），陳列戸棚は改築時に新しく購入したものだということが分かった。使いかけのパラフィンも見つかり当時の理科助手も標本の維持整理に関わっていた可能性もあるとのことだった。

A-5. 移送した標本の今後について

今回移動した鵜原寮の魚類の液浸標本は、恐らく生徒にみせるための展示用、教育用として作製されたものであろう。採集地は記載されていないが、遠方から持ってきたものとは考えにくく、外房の鵜原周辺で採集されたものである可能性が高い。今後、魚種や地方名を調べることで明らかになるかもしれない。

この標本は、自然史標本として必要な「いつ」「どこで」の採集情報が付加されていないものの、当時の学校活動の一端を示すものであり、その由来と今後の同定結果と共に残し、可能な限り利用できる標本の形にして残していきたい。現在、総合講座『『標本庫』学』2020 年度受講生により、標本の整理が進められている。今後、学校の古い記録などから標本の由来の詳細が明らかになることを期待し、将来的に地域の自然史標本として活用できるならば、然るべき機関へのさらなる移動などを検討していきたい。

B. 標本庫収蔵の鵜原、海浜学校に関係する液浸標本

ここからは、現在武蔵高等学校中学校標本庫に収蔵されている液浸標本のうち、鵜原寮に関わる標本と、戦前の武蔵高等学校の海浜学校で集められた標本について述べる。標本庫には 900 点を超える液浸標本があり（2011–2012 年、総合講座『『標本庫』学』受講生調べ）、その中には、鵜原寮を利用した部活動の合宿で生物部が採集した標本や、旧制武蔵高等学校初期に千葉県岩井で行われた海浜学校で採集した標本などが含まれている。

B-1. 1962 年に生物部が採集した鵜原の液浸標本

1962 年に生物部が採集した海洋生物の液浸標本が 8 点ある（図版 IV、表 3）。甲殻類、魚類のほか貝類、ムラサキウニが含まれ、ラベルと標本瓶の類似から同じ時に採集されたものであると考えられる。保存液はかなり減っており全くないものもある。

武蔵高等学校中学校の生物部では 1962（昭 37）年 8 月中旬に鵜原寮で合宿を行っている。著者のひとり臼井も当時中学 2 年でその合宿に参加しており、標本に採集地は記されていないが、主に勝場浦（現在の鵜原漁港、当時は小さな浜と磯）で採集したということであった。なお、生物部の部誌は 1969 年からで、これらの標本を作製したとされる 1962 年の合宿の記録は残っていない。採集の概要等の記録の補完は今後の課題である。

B-2. 戦前の海浜学校で採集された液浸標本

武蔵高等学校では開校 3 年目の 1924 年から、尋常科 2 年有志のために千葉県岩井村で海浜学校が行われた（武蔵九十年のあゆみ編集委員会、2013）。はじめの 3 年間は岩井で、1927 年には興津で実施されたのち、その翌 1928 年に待望だった学校寮の鵜原寮が開寮されてからは戦中戦後の中断などを除き 2018 年まで鵜原で行われた（表 2、図 1）。海浜学校開始当初は尋常科 2 年生だけでなく上級の複数学年の有志の参加もあった（学園記念室調べ）。

標本庫にある液浸標本の 900 点超の中には、1925 年 7 月 17 日に岩井で採集された魚類標本 18 点がある（図版 V、表 4：液浸番号 595 オニオコゼなど）。そのうちの 6 点には採集者と思われる「(和田・松浦)」の記載がある。この和田と松浦は創立時からの専任講師の和田八重造（当時 55 歳前後）と博物助手の松浦茂寿（当時 27 歳前後）の 2 人の名前と考えて間違いない。1925 年の海浜学校は 7/9–22 の期間に岩井で行われたことから、これらの 18 点の標本は海浜学校中に採集されたものといえる。実際に 1925（大 14）年の岩井夏期学校日誌（図版 VII）には『07/17 （前略）和田講師、松浦助手来着、長崎教授帰京。数名の生徒は和田講師引率の下に船にて表面採集。電灯下にて顕微鏡を窺くもの消灯時まで引続き』とあり（学園記念室、福田泰二調べ）、プランクトンの観察をしていたことが伺える。これは収蔵されている魚類標本の採集と同日の出来事であり、プランクトン採集の他に魚

類を仕入れ、標本作製もしていたのかもしれない。和田は旧制武蔵高等学校創立から本校の理科教育に従事し、戦後まで博物学講師・嘱託を勤めた（三井，1999）。松浦は翌1926年に武蔵を退職し、その後、旧制小田原中学校、小田原高等学校で長く博物学・生物学を教え、後進の育成に当たった（高宮，1958；勝俣，1972）。

他に、液浸番号402 ダイダイソカイメン・クロイソカイメンは、1928年7月下旬にHorieらが鵜原で採集したものがある（平井・吉田，岸田調べ；図版VI）。ラベルには正確な日付は記載されていないが、その年の海浜学校は07/16-29までの実施である（学園記念室調べ）。Horieは当時尋常科2年だった生徒の堀江秀光（6期理）と考えられ、海浜学校に参加しその際に採集したものであろう。1928年は鵜原で初めて海浜学校が行われた年で記念すべき標本ともいえる。堀江は卒業後、北海道帝国大学理学部動物学科に進学、のちに生物学者として活躍した（板倉，2014）。

そのほか、今回鵜原寮から移動した液浸標本の中には、1962年7月採集のシマヘビの標本（油性ペン番号59，図版IIIのF, f）と、1989年7月21日採集のエボシガイ（油性ペン番号なし）があり、これらは戦後の海浜学校期間中に採集された標本である（表1，2）。

前述のように鵜原での海浜学校は、旧制初期の1928年から、戦時下の中止を挟むものの約90年間行われた（表2）。2011年の東日本大震災の影響で一年中止、その後、建物が土砂災害の危険性が極めて高い区域に含まれると判断されたため（学園調べ）、2012年から近くにある至楽荘（鵜原修練会）を借りて続けたが、2018年度をもって武蔵中学校の海浜学校は幕を閉じた。本校の標本庫には、海浜学校という学校行事の中で採集された標本があり、今回鵜原寮から移動した多くの魚類の液浸標本も、はっきりとした年代は分からないがその中に位置づけられるものといえる。

同じように、旧制武蔵高等学校時代の軽井沢での山上学校で採集した昆虫標本や押し葉標本も、本校の標本庫に収蔵されている（白井ほか，2020；福田泰二調べ）。教育用標本であっても、由来や採集時期が分かれば自然史標本としての利用も期待できる。今後も、学校に眠る標本と学校史との対応を行いながら標本の由来を推定することで、標本の意義付けや標本としての利用可能範囲を広げていきたい。

謝辞

鵜原寮の標本の移動にあたり、管理人の野村浩三さん・照代さん夫妻、武蔵学園施設課の上田光代さん、武蔵高等学校中学校の梶取弘昌前校長、杉山剛士校長、加藤十握教頭には格別の配慮を頂いた。武蔵学園記念室名誉顧問の福田泰二さんには、海浜学校の日誌から初期の海浜学校の開催地や開催期間など標本の周辺に関わる重要な事項の調査および原稿に対して有益な助言を頂き、記念室室長の畑野勇さんには、記念室収蔵の写真の使用を

ご快諾頂いた。元校長の小林奎二さんには鵜原寮の 1988 年の改築工事の経過について情報を頂いた。今回移動した鵜原寮の標本の由来の情報収集では、本校体育科の山崎正晴さんはじめ、前管理人の深澤彰さん・たか子さん（千葉県勝浦市）から惜しめない協力を得た。

また、中岡佳祐さん（90 期）には作成したリストの確認と魚の簡易同定で、2019 年度総合講座『『標本庫』学』受講生の岸田知磨くん（現高 2）には標本の運搬作業で、2020 年度受講生の中村太洋くん（現高 1）には標本の整理でご協力頂いた。標本庫の 900 超の液浸標本の整理について、2011–2012 年度受講生の長井和貴さんと山口友亮さん（88 期）、平井純さんと吉田啓佑さん（89 期）が作成した「液浸標本リスト」を利用した。これらの方々に記してお礼申し上げる。

最後に、古くから鵜原寮にあったとされる標本を代々管理して下さった歴代の管理人の松村友明さん（昭 29–57：故人）、深澤さん夫妻（昭 57–平 9）、野村さん夫妻（平 9–令 2）にお礼申し上げます。鵜原寮の最後の管理人である野村浩三さんは 2020 年 6 月に逝去された。1998 年から約 20 年に渡り、学園の寮の維持管理、海浜学校での食事や生活面でサポート下さり、生徒と教職員共に大変お世話になった。これまでの感謝と共に氏のご冥福をお祈りする。

引用文献

- 板倉聖宣（監修）．2014．事典日本の科学者．日外アソシエーツ．971pp．東京．
- 勝保洋一．1972．故松浦茂寿氏所蔵の蕨類標本について．小田原市郷土文化館研究報告 8：10–16．
- 三井澄雄．1999．科学教育史研究ノート．同時代社．222pp．東京．
- 武蔵学園 70 年史委員会，1993．武蔵七十年史一写真でつづる学園のあゆみ一．学校法人根津育英会．279pp．東京．
- 武蔵九十年のあゆみ編集委員会，2013．武蔵九十年のあゆみ．学校法人根津育英会武蔵学園．283pp．東京．
- 白井亮久・高田 陽・福田悠人．2020．武蔵高等学校収蔵の戦前の昆虫標本の再整理（予報）～収蔵標本から探る創立期の生物相調査と Fauna Musashinensis との関連について～．武蔵高等学校中学校紀要．4：29–73．
- 高田 陽・白井亮久．2016．武蔵高中標本庫の鳥類剥製標本～1920 年代の採集標本に基づく鳥類の Fauna Musashinensis の作成～．武蔵高等学校中学校紀要 1：45–76．
- 高宮 篤．1958．自然を愛した人・教師・研究者・松浦茂寿氏の一生．植物学雑誌 71：126．

表 1. 2019 年に鶴原寮から移動した液浸標本の簡易リスト（協力: 中岡佳祐）

油性ペン 番号	ラベルの情報	種名（中岡による簡易同定）	ラベル種類	陳列戸棚 配架場所	ガラス蓋	分類群	採集日	備考：ラベルの状態、標本の状態
1	スベツタ〇ゴ		MKG	太ラベル	左中段	球形	魚類	
2	★12 (破れて読めず)	ホウボウ科の一種	(MKG)		左中段	球形	魚類	ラベル破れ
3	タケノコメバル	トゴツメバル	MKG		左中段	四角	魚類	
4	オニオコゼ	オニオコゼ	MKG		左下段	四角	魚類	
5	★〇〇コチ	コチ科の一種	MKG		左中段	四角	魚類	ラベルカビ
6	シメギス		MKG		左中段	四角	魚類	
7	ヤリイカ	ヤリイカ	MKG		左上段	球形	イカ類	
8	ハコフグ	ハコフグ	MKG		左中段	球形	魚類	ラベル剥離、2 個体
9	コショウダイ	コショウダイ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	
10	ムシガレイ	ムシガレイ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	2 個体
11	アカメゴチ	アカメゴチ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	
12	★10 <ラベル無し>	ゴンズイ	-		左中段	四角	魚類	
13	マアジ	マアジ	MKG	太ラベル	左中段	球形	魚類	
14	ハチカサゴ	カサゴ目の一種	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	
15	マタナゴ	マタナゴ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	
16	(シマチチキ)	ブリモトキ	MKG		左下段	球形	魚類	ラベル破れ、書き直し
17	ゴマサバ	ゴマサバ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	
18	(サヨリ)	サヨリ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	ラベル破れ、書き直し
19	ペダイ	タイ科の一種	MKG	太ラベル	左中段	球形	魚類	
20	タカノハダイ	タカノハダイ	MKG	太ラベル	左下段	球形	魚類	
21	ヒラメ	イシダイ	MKG	太ラベル	左上段	球形	魚類	※ラベルは「ヒラメ」だが明らかに標本個体はイシダイである
22	メヂナ	メヂナ	MKG	太ラベル	左上段	球形	魚類	(図版Ⅲの D, d)
23	イシガケダイ	イシガケダイ	MKG	太ラベル	左上段	球形	魚類	
24	エビスダイ	エビスダイ, ガンギエイ	MKG		左上段	球形	魚類	2 種入り、ビンが割れた。布ラベル「カギエビ」が付けられている
25	イナ	ボラ	MKG	太ラベル	左上段	球形	魚類	
26	キツネ	ソコダ科の一種	MKG	太ラベル	右下段	球形	魚類	(図版Ⅲの A, a)
27	セエゴ	スズキ	MKG		左中段	四角	魚類	
28	ミノカサゴ	ミノカサゴ	MKG		左中段	球形	魚類	
29	★9 <ラベル無し>	イトヒキアジ	-		左中段	四角	魚類	2 個体、幼魚
30	トシゴロ		MKG		左中段	球形	魚類	
31	シガンフグ	ヒガンフグ	MKG		左中段	球形	魚類	
32	イタチ	イタチウオ	MKG		左中段	四角	魚類	
33	トウデン	トウジン	MKG		右下段	球形	魚類	
34	アカタナゴ	アカタナゴ	MKG		左中段	球形	魚類	
35	★8 <ラベル無し>	イトウダイ科の一種	-		左中段	球形	魚類	
36	キュウセンバ	キュウセン	MKG		左中段	球形	魚類	ガラス割れ、液無し
37	キンチャクフグ	キタマクラ	MKG		右下段	球形	魚類	
38	ネズッポー	ネズッポ科の一種	MKG		左上段	四角	魚類	
39	エソギス	エソ科の一種	MKG		左上段	四角	魚類	
40	〇〇ビギス	キス科の一種	MKG		左上段	球形	魚類	
41	クロトラギス	クロトラギス	MKG		左上段	球形	魚類	
42	★7 <ラベル無し>	ウシノシタ科の一種	-		左下段	球形	魚類	
43	オハグロベラ	オハグロベラ	MKG		左下段	球形	魚類	
44	トウシロイワシ	トウゴロイワシ	MKG		左下段	球形	魚類	
45	ネメルゴチ	コチ科の一種	MKG		左中段	四角	魚類	
46	ヨキジウオ	ヨウジウオ	MKG		右下段	球形	魚類	
47	★6 <ラベル無し>	カサゴ目の一種	-		左下段	四角	魚類	
48	ギンダイ	ギンメダイ	MKG		左中段	四角	魚類	
49	マダイ	マダイ	MKG		左上段	球形	魚類	
50	☆5 <ラベル無し>	アジ科の一種	-		左上段	四角	魚類	3 個体
51	(シビレエイ)	シビレエイ	MKG	太ラベル	右上段	球形	魚類	ラベル破れ、書き直し
52	コバンザメ	コバンザメ	MKG		右上段	四角	魚類	(図版Ⅲの E, e)
53	<ラベル空欄>		MKG		右下段	四角	魚類	2 種入り、布ラベル「アカベラ」が付けられ、もう1種はラベル無し
54	アヲタナゴ	アヲタナゴ	MKG		右上段	四角	魚類	
55	ウミキンギョ	カサゴ目の一種	MKG		左下段	球形	魚類	
56	コライカ	コウイカ	MKG		左上段	球形	イカ類	
57	アンコウ	アンコウ	MKG	太ラベル	右上段	球形	魚類	(図版Ⅲの B, b)
58	アマダイ	アマダイ	MKG	太ラベル	右上段	球形	魚類	
59	シマヘビ	シマヘビ	手書き		右下段	四角	ヘビ	1962.7 (図版Ⅲの F, f)
60	☆4 <ラベル無し>	ヘビ類	-		右下段	球形	ヘビ	MKG ラベルにギル〇〇ガレイと書いてあるが、横線で消されている。
61	マムシ	マムシ	手書き		右下段	球形	ヘビ	1959 青いガラス板に張り付けてある (図版Ⅲの C, c)
62	セミホウボ	セミホウボウ	MKG		右上段	球形	魚類	
63	シマアジ	シマアジ	MKG		右上段	球形	魚類	
64	★3 <ラベル無し>	2 種類	?		右下段	四角	甲殻類	1 種はキンセンガニと思われる
65	(ホウボウ)	ホウボウ	MKG		右上段	球形	魚類	ラベル破れ、書き直し
66	ネギウヲ	カサゴ目の一種	MKG		右上段	四角	魚類	
67	★2 <ラベル無し>	ウツボ	-		右上段	球形	魚類	
68	☆1 <ラベル読めず>	スズキ目の一種	MKG		右上段	四角	魚類	ラベル劣化
69	アカトラギス	アカトラギス	MKG		右上段	球形	魚類	
70	ノドグロカサゴ	カサゴ目の一種	MKG		右上段	球形	魚類	
71	ハカリメアナゴ	マアナゴ	MKG		右下段	球形	魚類	
72	メクラウナギ	ヌタウナギ	MKG	太ラベル	右下段	球形	魚類	
73	キチガイウナギ	ウナギ目の一種	MKG		右下段	球形	魚類	
74	アカメフグ	アカメフグ	手書き		右下段	バッキン	魚類	
-	グソウグエ	ヒラメ科の一種	手書き		右下段	バッキン	魚類	
-	えぼしがい	エボシガイ	手書き		右下段	バッキン	甲殻類	1989 ※ラベルの情報：Lepas anatifera 1989.7.21 守谷湾 杉英里
-	ゴンズイ	(標本なし)	-		左下戸棚	四角		空瓶。ラベルのみ
-	メバル	(標本なし)	MKG		左下戸棚	球形		空瓶。ラベルのみ
-	アマナゴ	(標本なし)	MKG		左下戸棚	球形		空瓶。ラベルのみ

MKG : MUSASHI KOTŌ GAKKŌ の略

表 2. 旧制高等学校時代から続いた海浜学校と標本に関わる年表

西暦	元号	場所	海浜学校、鵜原寮、標本に関する事項
1924年	大13	岩井	府立四中の寮を借り、尋常科2年有志のために海浜学校開始
1925年	大14	〃	★海浜学校中の和田・松浦採集の魚類標本 ----- 図版V. 表4
1927年	昭2	興津	千葉県興津にて実施 (液浸番号348ほか18点)
1928年	昭3	鵜原	(旧)鵜原寮、開寮。学校寮を使用し、鵜原での海浜学校開始
			★海浜学校中の堀江秀光採集のカイメン標本 ----- 図版VI (液浸番号402)
1938年	昭13	〃	千葉県内での赤痢発生で中止 (1940-1950年 戦争等により、中断を含む)
1951年	昭26	〃	海浜学校再開(戦後初)
1957年	昭32	〃	(☆お手伝いのTさんが、今回移動した標本を寮で確認)
1959年	昭34	〃	★松村管理人が作製したマムシの標本----- 図版IIIのC, 表1
1962年	昭37	〃	★生物部の合宿で採集された海洋生物の液浸標本 ----- 図版IV, 表3 (液浸番号305ほか8点)
1988年	昭63	〃	☆本館の改築工事(現在の鵜原寮)に伴い、標本の一時避難
1989年	平1	〃	★海浜学校中に守谷湾で生徒が採集したエボシガイの標本 ----- 表1
2011年	平23		東日本大震災の影響で、中止
2012年	平24	〃	鵜原寮使用できず、至楽荘にて再開
2018年	平30	〃	最後の海浜学校
2019年	令1		☆鵜原寮の標本を武蔵高等学校第一標本庫へ移動(本報告) ----- 図版I~III

★は標本の作製，☆は標本の確認や動きを示す

↑ 今回移動した
MKGラベル
↓ 標本の
採集時期

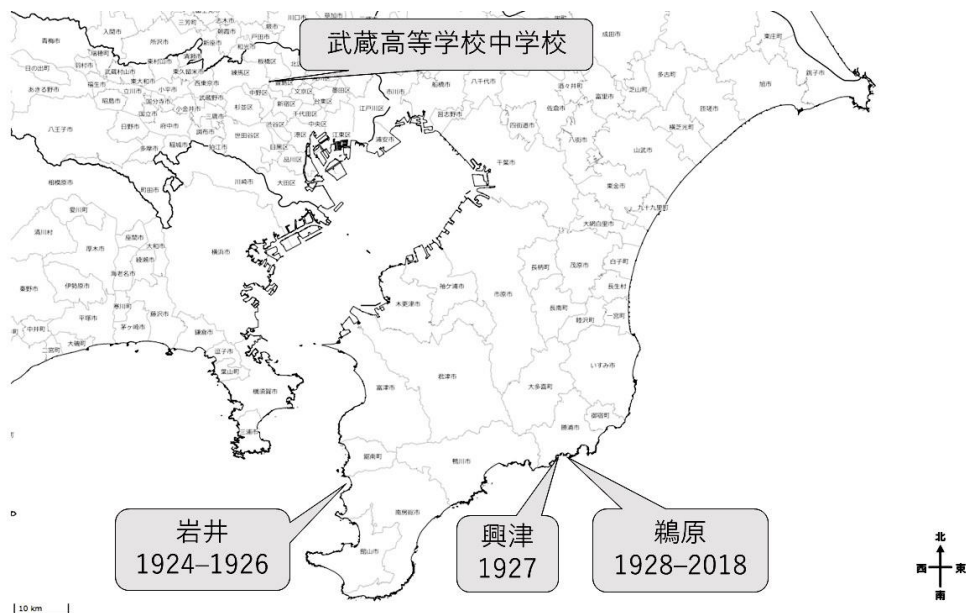


図 1. 海浜学校の実習地と実施年（地理院地図を使用）

図版 I. 標本の移動の様子



A. 収納状況。下の戸棚はほぼ空だった



B. 管理人の野村さんにお話しを伺う



C, D. 新聞紙・あるいはエアークッションでひとつずつ梱包しコンテナに収容する



E. 全ての梱包が完了



F. 野村さんと記念撮影
(左から、岸田・臼井・野村・白井)

図版 II. 標本の移動の様子（続き）



A. 改築の際に使用したと思われる薬品（'88. Jul.）



B. 標本瓶表面には、油性ペンで数字(01~72)や記号(★)が付されていた（臼井の筆跡）



C. MUSASHI KÔTÔ GAKKÔ の古いラベルには、生物の和名のみ記載されている



D. 布に墨で書いたラベルもあり、古いものと思われる



E, F. 鵜原寮の概観（2019.7.29.）

図版 III. 鵜原寮から移動した標本（一部）

（撮影：中岡佳祐）



A,a : キツネ (MUSASHI KÔTÔ GAKKÔ: MKG ラベル) B,b : アンコウ (MKG ラベル)

C,c : マムシ *Agkistrodon halys* (Pallas 1776) 25/VII 1959

ウバラ寮入口トンネルにて捕獲 毒牙及び尾端損傷. カエル? を吞んで腰部膨満

D,d : メヂナ (MKG ラベル) E,e : コバンザメ (MKG ラベル)

F,f : シマヘビ 1962, 7

図版 IV. 生物部が 1962 年に鵜原周辺で採集した液浸標本



- A. 標本の収蔵状況 B. 生物部が 1962 年に採集した 8 点の標本
C. 標本ラベル「ムラサキウニ（1962）生物部」
D. 当時の鵜原寮の様子（1968 年 8 月撮影，学園記念室収蔵）

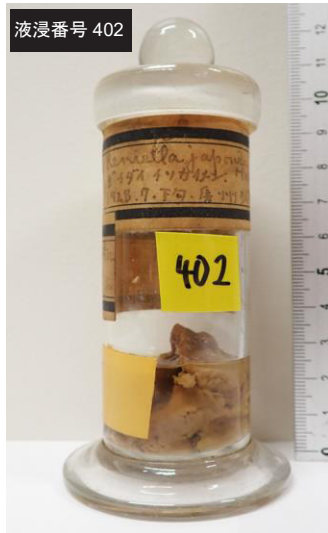
表 3. 生物部が 1962 年に鵜原での合宿で採集した標本リスト

液浸番号	ラベルに記載されていた情報
305	イソシマエビ (1962) 生物部
306	サバフグ (1962) 生物部
308	イソクズガニ、オウギガニ (卵) (1962) 生物部
311	ショウジンガニ (1962) 生物部
315	カメノテ (1962) 生物部
317	ムラサキウニ (1962) 生物部
319	タツノオトシゴ (生物部)
324	アコヤガイ、ナツメイモ (1962 年) 生物部

図版 V. 1925 年の岩井での海浜学校で採集された魚類標本



図版 VI. 1928 年の鵜原での海浜学校で採集された海綿標本



(撮影：岸田知磨)

液浸番号 402. 鵜原の海綿標本

標本ラベルの記載内容 (2 つのラベルが貼付)

- ① *Reniera okadai*, Kadota. クロイソカイメン.
Horie. Ton. 1928.7.下旬. 房州.ウバラ.
- ② *Reniella japonica*, Kadota. ダイダイイソカイメン.
Horie. Ton. 1928.7.下旬. 房州ウバラ.

表 4. 1925 年の岩井での海浜学校で採集された魚類の液浸標本リスト

液浸番号	ラベルに記載されていた情報	No. シール
348	<i>Chelidonichthys kumu</i> . ホオボオ. 房州岩井. Jul. 17. 1925.	113
349	<i>Monocentris japonicus</i> マツカサウオ 房州 岩井 Jul. 17. 1925.	117
352	<i>Zebrias zebrinus</i> ツルマキ 房州 岩井. Jul. 17. 1925. (和田 松浦)	-
359	<i>Pseudupeneus bensasi</i> . ヒメジ 房州岩井.	122
450	<i>Monacanthus cirrhifer</i> . カワハギ 房州 岩井 Jul. 17. 1925.	116
454	<i>Rhinoplagusia japonica</i> . ウシノシタ 房州 岩井海岸. Jul. 17. 1925.	132
497	<i>Zebrias janicus</i> . * セトウシノシタ 房州. 岩井. Jul. 17. 1925. (和田. 松浦)	110
511	<i>Pseudupeneus bensasi</i> . ヒメジ 房州. 岩井 Jul. 17. 1925.	114
522	<i>Parapristipoma japonicum</i> . イサキ 房州 岩井. Jul. 17. 1925. (和田. 松浦)	111
572†	<i>Raja kenoei</i> . ガンギエイ 房州岩井. Jul. 15**. 1925. (和田. 松浦)	118
584	<i>Sillago sihama</i> . キス 房州. 岩井. Jul. 17. 1925.	130
592	<i>Epinephelus septemfasciatus</i> . * マハタ 房州. 岩井. Jul. 17. 1925.	126
595†	<i>Inimicus japonicas</i> オニオコゼ 房州 岩井. Jul. 17. 1925. (和田. 松浦)	127
596	<i>Uranoscopus japonicus</i> . ミシマオコゼ 房州 岩井 Jul. 17. 1925.	121
600	<i>Therapon oxyrhinchus</i> . * シマイサギ 房州岩井. Jul. 17. 1925.	131
602†	<i>Pleuronichthys cornutus</i> . メイタガレ 房州岩井 Jul. 17. 1925.	120
716†	<i>Lophiomus setigerus</i> . アンコオ. 房州. 岩井. July. 17. 1925.	129
718†	<i>Cypselurus agoo</i> . トビノウオ 房州 岩井. Jul. 17. 1925. (和田. 松浦)	119

ラベルに記載されていた情報をそのまま記録した(再同定は行っていない)

ラベルの種類は全てMUSASHI KÔTÔ GAKKÔ (MKGラベル)

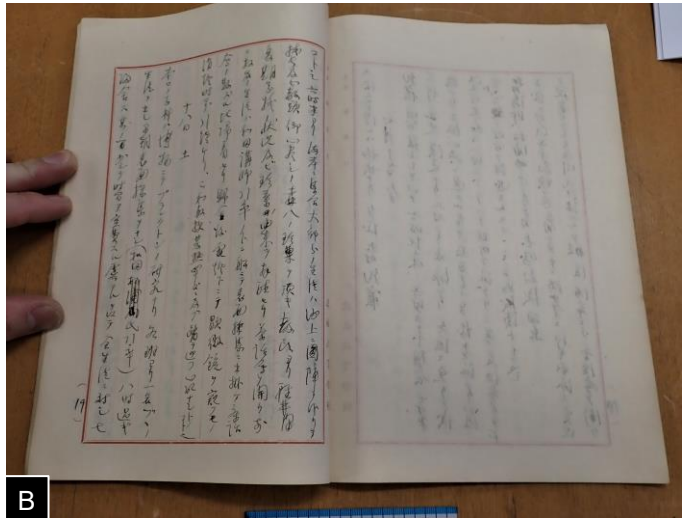
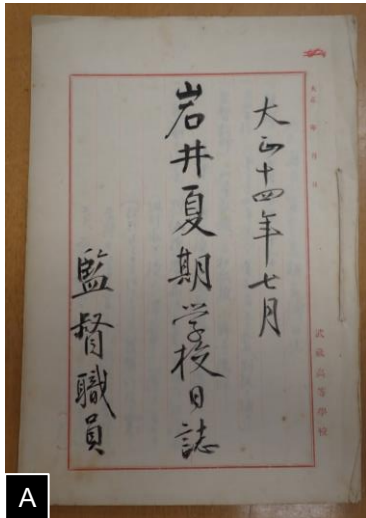
†は図版Vで図示したもの

*3つの学名は、正しくは以下と思われる

(497) *Zebrias japonicus*, (592) *Epinephelus septemfasciatus*, (600) *Therapon oxyrhinchus*

**岩井夏期学校日誌(大正14年)によれば、和田と松浦の到着前の日付なので、書き間違いの可能性があり、他の標本の日付と同じJul. 17.かもしれない。

図版 VII. 武蔵学園記念室に保管されている海浜学校資料



A と B. 「大正十四年七月 岩井夏期学校日誌 監督職員」(A. 表紙, B. 本文)



C. 岩井での海浜学校の様子. 中央でハットをかぶっている人物が和田八重造講師
(1925・大 14 年 7 月 20 日撮影, 学園記念室収蔵写真)

D. 待望の学校寮であった 1928 年開寮の鵜原寮 (学園記念室収蔵写真)

Shirai, Akihisa and Usui, Akira (2021) A Report on the Transport of Fish Specimen from Ubara, Chiba Prefecture to Musashi High School, Nerima Tokyo. The Musashi Bulletin 5: 93-108.
